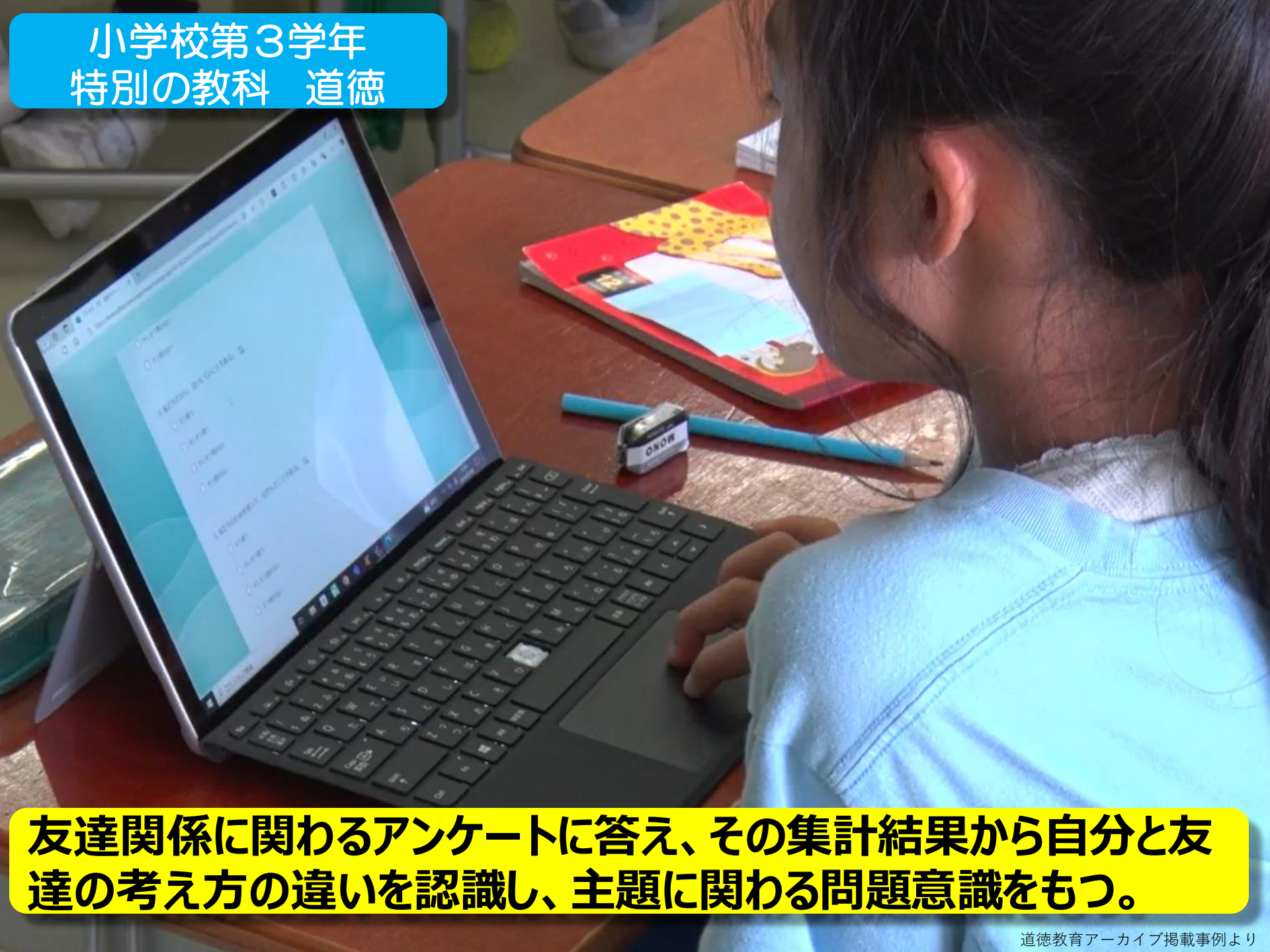


小学校第3学年
特別の教科 道徳



友達関係に関わるアンケートに答え、その集計結果から自分と友達の考え方の違いを認識し、主題に関わる問題意識をもつ。

小学校第3学年 特別の教科 道徳「内容項目B 友情、信頼」

■主題名

信頼し合う友達関係っていいな

■ねらい

友達と互いに理解し、信頼し合おうとする心情を育てる。

■教材の概要 「絵葉書と切手」(出典:「新版 みんなのどうとく3」Gakken)

友達から届いた絵葉書は、料金不足であった。そのことについて、お母さんとお兄さんの考えを聞いて、友達に伝えるかどうか葛藤する主人公が、これまでの友情を振り返り、相手の立場に立って考え、言いにくい内容も伝えることを決心する。

■学習指導過程

導入

- 1 友達関係に関するアンケートを行う。
「友達関係について、振り返ってみましょう。」
【アンケートの項目】
 - ・友達には何でも言える
 - ・友達だから、言いにくいこともある
 - ・友達のためを思って悩んだことがある

展開

- 2 「絵葉書と切手」を読み、話し合う。
「お母さんとお兄さんの話を聞いて、どのように返事を書いたらよいか、まよってしまったひろ子さんは、どんな気持ちだったのでしょうか。」
「ひろ子さんは、どんな気持ちで知らせようと決心したのでしょうか。」
- 3 友達関係を振り返る。
「友達を思って悩んだことや、友達を信じて行動して、もっと仲よくなれたと感じたことはありますか。」

終末

- 4 教師の説話を聞く。

■指導上の留意点

- ・学習支援ソフトを使ってアンケート調査を行い、その結果をその場で共有することによって、子供一人一人が自分と友達との感じ方や考え方の違いを踏まえながら、「友達とこれからもっと仲を深めていくためには」という友達とのよりよい関係の在り方について問題意識をもつことができるようにする。
- ・友達に言いにくいことを、伝えるかどうか迷うひろ子さんに自我関与して、友達を思う気持ちを考えられるようにする。
- ・お互いを理解し、信頼し合う友達関係を築くよさを考えられるようにする。
- ・多面的・多角的に考えられるようにするために、役割演技を行う。
- ・お互いを理解し、信頼し合う友達関係を築くよさを感じたときの気持ちを自分との関わりで考えられるようにする。
- ・教師自身が信頼している友達の話をすることで、ねらいとする道徳的価値について、余韻をもてるようにする。

■資質・能力が育成され「深い学び」が実現している子供の姿

【学習活動の場面】

導入における学習活動の場面において、ねらいに関わる友情や信頼について、子供の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図ることができるようにする。

そのために教師は、学習支援ソフトを活用し「友達関係について、振り返ってみましょう。」と投げかけ、アンケート調査を行った。

【子供の「深い学び」の姿】

友達関係について、振り返ってみましょう。（子供たちはアンケートに端末を使って回答）

【アンケート項目】

- ・「友達には何でも言える」「友達だから、言いにくいこともある」「友達のために思って悩んだことがある」
アンケートの集計結果を見てください。（子供たちからは悩んだことがある友達の多さに驚きの声上がる）

- ・友達には何でも言える。

そう思う7人　少しそう思う5人　少しそう思わない4人　そう思わない6人

- ・友達だから言いにくいこともある。

そう思う9人　少しそう思う5人　少しそう思わない4人　そう思わない4人

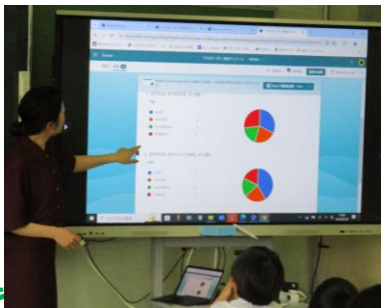
- ・友達のために思って悩んだことがある。

そう思う9人　少しそう思う9人　少しそう思わない3人　そう思わない1人

その後、子供たちとこの時間は「友達とこれからもっと仲を深めていくために」ということについて、じっくり考えていくことを確認した。

【当該指導での「深い学び」】

「深い学び」を実現するためには、導入における学習活動の場面において、子供がねらいに関わる友情や信頼について問題意識をもつことができるようにすることが重要である。本授業においては、アンケート調査の結果を共有することによって、自分と友達の感じ方や考え方が違うことを踏まえて、どうしたら友達と仲よくできるのかという具体的な問題意識をもつことができたと考える。また、導入後の展開における学習活動の場面では、この問題意識を基に登場人物の生き方について自分との関りで捉えることができたと考える。



■指導上の工夫とICTの利活用

①アンケート結果を基に主題に関わる問題意識をもつことができるようにする。

* 学習支援ソフトを活用することによって、その場でアンケート調査を行い、すぐに結果を学級全体で共有することができる。

②子供たちが端末に自分の思いや考えを回答できる時間を確保する。

* 質問を精選（今回は3問）した上で、選択式にすることによって短時間で回答することができる。

③アンケート調査の結果や、その結果を受けての子供たちの反応などから問題意識の見える化を図る。

* 大型提示装置に映し出されたアンケート調査の結果を活用することによって、本授業に対する子供の問題意識を確認することができる。また、学習の見通しをもたせることができる。

【活用したソフトや機能】
Microsoft forms

学習指導要領や解説との関連

小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い2

(3) 児童が自ら道徳性を養う中で，自らを振り返って成長を実感したり，これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際，道徳性を養うことの意義について，児童自らが考え，理解し，主体的に学習に取り組むことができるようにすること。

出典：小校学習指導要領P171

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第2節 道徳科の指導2の(2)

ア 導入は，主題に対する児童の興味や関心を高め，ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階であると言われる。

具体的には，本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入，教材の内容に興味や関心をもちたせる導入などが考えられる。

出典：小校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P82